

ガーフィールド (GARFIELD)

2004(平成16)年8月19日鑑賞(東宝試写室)

★★



監督=ピーター・ヒューイット/原作=ジム・デイヴィス/出演=ビル・マーレイ(声のみ)/ブレッキン・メイヤー/ジェニファー・ラヴ・ヒューイット(20世紀フォックス映画会社配給/2004年アメリカ映画/81分)

……アメリカンコミックで大人気のキャラクター猫が^{ガーフィールド}GARFIELD。いわばミッキーマウスのネコ版だ。飼い主に可愛がられ、「我が世の春」を謳歌していた小生意気なガーフィールドだったが、そこに新たにご主人の寵愛を受けた1匹の犬が入りこんできたため大波乱が……。子供心に戻って、楽しく時間を過ごすことができればいいのだろうが、55歳ともなると、なかなかそうも……？

ガーフィールドとは……？

ガーフィールドとは、1978年に新聞連載が始まるや大人気となった、コミックの主人公。ネズミにはミッキーマウスという超スーパースターがいるのに、猫の世界にスーパースターがないのはおかしいという発想から、コミックライターのジム・デイヴィスが生み出したもの。全世界で大ブレイクし、今や全世界の2600以上の新聞で連載され、全世界で2億6000万人以上の読者を持つ、「世界一有名な猫」とのこと。また1980年代にアニメ化されたシリーズは、エミー賞の常連になっているとのこと。もっとも私はそんなアメリカのコミックやアニメの世界は全く知らないまま、はじめて『ガーフィールド』の世界へ……。

ガーフィールドのキャラクターとそのビジュアルは……？

アニメの人気猫ガーフィールドの主なキャラクターは、①ラザニアが大好物で食欲旺盛、②月曜日が嫌いで月曜日はブルー・マンデー、③大のエンターティナ

ーで近所の塀の上でワンマン・コンサートを開いている。こんなキャラが、多くの人々に愛されているわけだ。食欲旺盛なためガーフィールドはかなりの肥満体だが、2本足で立ってのダンスの腕前はなかなかのもの。映画化にあたっては、このガーフィールドの姿をいかに魅力的に見せるか、そしてそこにイキイキとした生命を吹き込むかがポイントで、最新のCGI（3D-CG）技術が投入されたとのこと。したがってその出来は、この手の映画としては上等なもの……。

さてそのストーリーは……？

こんなガーフィールドを主人公にしたお子様向け映画（？）だから、ストーリーはいたって簡単。飼い主のジョン・アーバックル（ブレッキン・メイヤー）は、ガーフィールドを連れてお目当ての女性獣医リズ・ウィルソン（ジェニファー・ラヴ・ヒューイット）の働く動物病院を訪れたところ、リズから一匹の犬、オーディをもらい受ける羽目に。ところが何と、飼い主のジョン・アーバックルはこのオーディにご執心……。ガーフィールドはオーディとさまざまな形で「対決」するが、なぜか空回りとなり、負けてばかり……。しかしそんな中、オーディがあるドッグショーの会場で、ガーフィールドから教わった派手なダンスパフォーマンスを見せたことがきっかけで、テレビの地方局のキャスターをつとめているウォルター・J・チャップマン（ステイブ・ン・トボロフスキー）によって捕らえられてしまった。さあ大変。ここからガーフィールドの活躍が……。

単純に楽しめばいいのだが……？

最近はやブーム。たしかにミッキーマウスのような超スーパースター猫はいないものの、ミュージカルの『キャッツ』の大成功に見られるように、ネコの市民権（？）は近時大きく拡大している。そんな中、アメリカの人気アニメの日本上陸が果たして、日本のネコ愛好家に対してどんな効果を及ぼすのだろうか？

何も難しいことを考えないで、単純にガーフィールドの悩みに同情し、またその活躍ぶりに拍手喝采を送ればいいのだろうが、55歳にもなると、なかなか単純にそういう気持にはなれないもの。でも、まあ時間の無駄ではなく、生命の洗濯ができたと考えて納得しよう……。

2004(平成16)年9月2日記